

令和5年度 船原幼稚園教育活動に対する学校評価委員報告書

学校法人 さくら学園 船原幼稚園

1. 園の教育目標

建学の精神である『こころとからだの健康づくり』を踏まえ、温かな環境の中で、一人ひとりを大切に
した環境を目指し、その中で育ててほしい子ども像

- ・生き生きとして明るく、思いやりのある子ども
- ・友だちと一緒に楽しく遊ぶことのできる子ども
- ・遊びや生活の中で、自分で考え、行動し、試し、工夫してやろうとする子ども

2. 今年度の重点目標

・集団生活の中で、子ども達一人ひとりが自分の想いを発揮しながら、主体的に生活でき、自立心の芽生えを培うことができる環境のなかで、園児も保護者も安心して園生活を送ることができる園作り

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(評価点 A 十分に成果あり B 成果あり C 少し成果あり D 成果がない)

評価項目	教師		学校評価委員	
	達成度	理由	達成度	理由
教育活動が、年齢やクラスの実態に合わせ子どもたちにとって楽しく充実したものになっていたか	A	<ul style="list-style-type: none">➤ 個人差がある学年では教育活動の難しさはあるが、日や週や月ごとに振り返りをし、次のねらいを決めている➤ 子どもの興味あることを活動に取り入れようと、他の教師と相談しながら活動している。クラスの実態を把握するため、こまめに記録をとったり教材研究をこれからも行っていきたい。➤ 様々なことに興味を持ち始め、意欲的に取り組む姿が見られた。子どもたちの意欲を高められるよう工夫をし、地震につなげられるように活動をした。子どもによって新しい事に対し消極的な子もいるので、より興味を持てる工夫を考えていきたい。➤ 子どもたち自らが活動を進め、相談、工夫して活動が行えるよう見守ることもあった。子ども同士で意見がぶつかってしまった際には話をよく聞き、互いに納得のいく答えが出るよう配慮した	A	<ul style="list-style-type: none">● 学年が上がり、前年度より行事等を楽しみにしている姿をよく見るようになった。● クラスに通年通してテーマがあり、子どもたちが楽しそうであった。また、行事のプレゼントもテーマに沿って考えること出来て良かった。● 家庭で手伝いをしたら「はなまる」をもらえるという活動のおかげで、家庭でも手伝いをよくするようになった。

<p>子どもたちの安全に気を配り安心して生活が送れるよう環境構成や言葉かけを行っていたか</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 集団生活の中では、遊びの危険度合いが分かりにくいこともあるので、その都度声を掛けるよう配慮した。 ➤ 園庭や園外保育など広い視野で、場所を分かれて子どもたちの様子を見れるようにしている。危険事を言葉で注意するだけでなく例え話や絵本などを使って理解させたい。 ➤ 手洗い、うがい、消毒を丁寧に行えるよう声を掛けた。危険な行動もなぜだめなのか子どもと一緒に考え、子ども自身が気付けるように配慮した。ポケットに手を入れる子が目立つので、声を掛けていきたい。 ➤ 遊具で遊ぶ事、道具を使う事など動線を考え行動できるよう配慮した。学年によって環境構成が異なると思うが、その時々にあった環境、気配りをしていきたい。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊具もきれいになって、子どもたちも新しい遊具に喜んでいる。 ● 幼稚園が安全に對しどう取り組んでいるのかが分かりにくいですが、怪我なく過ごせていたので良かった。 ● 園で声を掛けてくれているから、家庭でもうがいを積極的にするようになった。 ● 帰りの際も消毒をしたらいいのではないか。
<p>子どもたちに寄り添った援助や年齢に応じて育ててほしい姿を伸ばすことができるか</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 個々への援助を常に考えている。差がある学年のため、少人数であっても教師の援助、配慮が行き届かない場面もあった。子ども一人ひとりの理解を深め他の教師とも連携して援助していきたい。 ➤ 脅威や友だちに対して自分の意見を素直に言えない子もいる。個々の性格は違うので、のびのびと友だち同士で遊び、発言したりしているよう引き続き援助が必要であると感じる。 ➤ 自分たちで行動できるよう、見守ることもあった。どこまで教師が介入しようか迷うこともあるが、子どもの様子に合わせた声掛けを試行錯誤していきたい。 	<p style="text-align: center;">C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● クラスの輪に入れない子に対して友だちが手を引いて活動をしていて良かった。頼られた子も責任感や達成感が生まれるのではないか。 ● 周りの事、どう同じなのか、どこが違うのかをはっきりと教えてくれてよかった。 ● 先生の言葉掛けは子どもにとって、大きな影響を与える。そこで、子どものやる気も変わってくる。 ● 子どもの様子など具体的なことを教えてほしかった。 ● 先生同士で助言しあいより良い保育を目指してほしいと思う。

<p>他の教職員と情報を共有し、意見交換をしながら、教育活動を実施しているか。また、学期ごとクラスの課題を見直すことができたか</p>	<h1>A</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ フリーとして担任教師の考えを聞き、同じ考えをもって保育を行えるよう配慮している。また、年長者が若い教師に対しアドバイスをするなど様々な発想を持てるようにしている。 ➤ 自分の行う保育や子どもへの援助に対し、色んな教師から助言をもらうようにし、クラスの課題や個人の課題を考えている。 ➤ 保育後に子どもの様子を共有したり、製作のアドバイスをしたり、されたりしている。そこから週案や月案などで課題点を振り返っている。 ➤ 自己判断せず、多くの教師で情報を交換し、保育やその他さまざまな活動の対応を考えていけるよう今後も、気を付けていきたい。 	<h1>B</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生達で子どもの様子を伝え合っていて、情報交換は出来ていた。 ● 若い先生が自己判断をしてしまっている部分があるのではないか。
<p>子どもの園での姿や育ちに関することを保護者に伝えたり、相談相手になったりして情報交換を図っていたか</p>	<h1>B</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 保護者との絆や信頼関係を築きにくいことがある。子どもの成長に対し同じ気持ちで願いを持ち、連携をとっていきたい。保護者に対し深いな思いをさせないか言葉選びが難しいと感じるときがある。 ➤ 話ができる保護者に偏りが無いよう気を付けていたが、なかなか話が出来ない保護者もいた。意識して声を掛けるようにしたい。 ➤ 面談や朝や帰りの際に子どもの様子を伝えるようにしている。直接話ができないときは手紙でのやり取りをした。しかし、上手に伝わらない部分もあり、情報交換の難しさを感じる。 	<h1>B</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ● 役員は行事の際に話が出るが、他の保護者の方とは話が出る機会が少ないと思う。 ● 朝の迎え入れの際、一言でも様子が聞けるとこんな日だったんだとわかる部分があっている。 ● メール機能をもっと活用し情報を発信してほしい。

4. 総括・特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ● 週や月の活動内容や子どもにどんなことを学んでほしいのかを書類として書いている。しかし、実際に保育をしてみると教師の想像より出来る時、出来ない時がある。その都度、子どもの様子を更新し新たなねらいを組み立て、計画を練り直していくようにしている。 ● 保護者との二人三脚はなかなか難しいと感じるときがある。子どもの成長をねがい、子どもの今の様子を知ってもらい家庭と連携をとれるようにするのが大切だと感じる。 ● 月の行事や集会などで、子どもたちが楽しみながらも、何か一つでも学びにつながるよう企画を考えている。活動内容がマンネリ化しないよう新しい情報を取り入れられるようにしたい。 ● 園庭の草取りや園舎の清掃活動など、保護者の方にも参加してもらえそうな活動があれば助かる。また、そのような機会が情報交換や交流の場になると良いと感じる。
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教師の資質向上について	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々では、保育誌や保育の専門書を読んだり見たりして、保育の参考にしたり、新しい活動のアイデアを考えたりする。 ● 常に教員同士で話し合ったり、相談したりすることで問題を解決したり園児理解を深める。 ● 日々や週、月、学期で保育を振り返り、反省点を見つけ次に生かすように努力する。 ● 研修や講演会に積極的に参加し新しい知識を吸収し、教員全体で共有していく。 ● 美しい絵画や音楽に触れることで感性を磨く努力をする。
保護者への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者との信頼関係を築けるように、子どもの様子を些細なことでも伝え、一緒に子どもの成長を喜び合い、連携を図る。 ● 流行している感染症や欠席状況など公開できることは、正確に情報を発信し、保護者の不安を軽減する。 ● 個々の子どもについて教員同士で連携を取り合い、担任だけでなく教員全体で子どもを見ていることを示し安心してもらう。
地域とのかかわりについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の中学生の職場体験の受け入れ、老人施設への訪問、小学校の見学等、地域の施設との交流を広げる。 ● 未就園児の会を開き園庭の開放をしたり、同じ年ごろの子を持つ親同士のコミュニケーションを持つ場として提供する。

6. 学校関係者評価委員からのコメント

- 以前より子どもから話をしてくれることが増えていたり、行事までの日数を指折り数えて楽しみにしている様子がうかがえるようになった。
- 役員をやっていたからこそ、見ることが出来た行事もあった。しかし、掃除や草むしりなど園の手伝いも参加したいという保護者もいるので声を掛けてもいいのではないかと。掃除なども「お父さんのお手伝い」のように紙で募集を募ってもいいのでは。
- 給食参観はとてもよかった。ぜひまたやって欲しい。
- インフルエンザやコロナウイルス感染症など、個人を特定できない範囲で園で出た等の情報があれば、家庭でも衛生面で普段以上に気をつけることができると思うので、教えてほしい。
- メール機能をもっと活用し、情報を発信してほしい。

評価年月日 令和6年 3月 7日

評価者